2026 年 11 月 19 日
株式会社サイエンスアーツ（東証グロース:4412）

日本最大級のホテルチェーンを展開するアパホテル DX 基盤として「Buddycom」を導入開始

株式会社サイエンスアーツ（所在地：東京都渋谷区、代表取締役社長：平岡竜太朗）は、日本最大級のホテルチェーンであるアパホテル株式会社（本社：東京都港区、取締役社長 元谷芙美子）において、フロントラインワーカーをつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム「Buddycom（バディコム）」が導入されたことをお知らせいたします。

アパホテルではホテルスタッフ間のコミュニケーション効率化およびサービス品質向上を目的として、2026 年 6 月中旬より同社を代表する大型ホテル「アパホテル＆リゾート〈横浜ベイタワー〉」等の複数施設にて本格運用を開始しており、順次導入拠点を拡大しています。



■導入の背景：観光需要復活に伴う「ホテル業界の人手不足」と「先進 DX」への対応

現在、ホテル・観光業界では国内旅行やインバウンドを含めた宿泊需要が回復・拡大する一方、慢性的な人手不足が共通の経営課題となっています。ホテル運営では、支配人、フロント、清掃、設備管理、ベルスタッフ、オペレーターなど、多様な職種が同時並行で業務を行うため、迅速で正確な情報共有がサービス品質を大きく左右します。

アパホテルでは、アプリチェックイン専用機や、ホテル間での相互チェックインをサポートする「遠隔フロントシステム」など、業界をリードする先進的な DX 施策を早くから導入してきました。こうしたバックヤードのデジタル化に伴い、現場スタッフ間のコミュニケーションインフラの刷新も重要になっています。

特に大型ホテルでは、従来の無線機で発生しやすい館内の電波課題を解消し、支配人、フロント、設備管理、ベルスタッフ、遠隔フロントシステムの管理者など、異なる部門・フロア・拠点を柔軟につなぐ仕組みが求められます。こうした要件を満たす現場の音声 DX 基盤として、「Buddycom」が選定されました。

■アパホテルの高度なオペレーションを支える「Buddycom」の優位性

他社連携・遠隔フロントシステムとの高い親和性

Buddycom は、株式会社タップが開発するアパホテルの PMS（ホテル基幹システム）と連携して活用されており、ホテル運営に必要な情報と現場スタッフ間のコミュニケーションをつなぐ役割を担っています。

また、アパホテルが推進する「遠隔フロントシステム」などの先進的な仕組みと並行し、バックヤードのリアルタイムな連絡手段として機能します。フロントやオペレーターが利用する PC（Windows 版）での優れた操作性が評価され、本部と現場、あるいはホテル間をまたぐシームレスなコミュニケーション環境を構築します。

多職種・マルチタスク化を支える柔軟なグループ（チャンネル）管理

部門別、役割別、業務別にグループを設定できるため、必要な情報を必要なスタッフへ確実に届けることができます。ファンクションボタン搭載 Bluetooth マイク「MKI-P3」を利用することで、スタッフは業務に応じてチャンネルを切り替えながら、スマートフォンを取り出すことなく連絡できます。

大規模運用に耐える強固な管理体制

管理コンソールから、ユーザー、グループ、利用機能などを一元的に管理できます。大規模なホテルチェーンでの運用において、ライセンスの追加やグループ切り替えがスムーズに行える優れた管理画面と、高いセキュリティ性が評価されました。

音声を起点に、テキスト・翻訳・映像へ拡張できるプラットフォーム

Buddycom は音声通話に加え、通話内容のテキスト化・翻訳、チャット、映像配信、位置情報共有などへ拡張できます。必要な機能を段階的に追加できるため、現場のコミュニケーションツールから、ホテル運営を支える DX 基盤へ発展させることができます。

■今後の展望

サイエンスアーツは、本導入をホテル・宿泊業界における Buddycom の活用拡大に向けた重要な一歩と位置付けています。今後もアパホテルにおける安定運用と導入拡大を支援するとともに、全国のホテル・宿泊施設への展開を進めてまいります。

また、ホテル業界に向けて、Buddycom で扱う音声、テキスト、映像などの情報と AI を組み合わせ、業務内容の要約・引き継ぎ支援、多言語コミュニケーション、問い合わせ対応支援、異常・緊急事象の早期把握など、現場業務をさらに高度化する AI ソリューションの開発を検討してまいります。

■Buddycom とは（https://buddycom.net/ ）



フロントラインワーカーをつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム
「Buddycom」は、インターネット通信網（4G、5G、Wi-Fi®）を利用して、スマートフォンやタブレットにアプリをインストールすることで、トランシーバーや無線機のように複数人と同時コミュニケーションを可能にするサービスです。音声、テキストチャット、動画、位置情報（IoT）に加え、AI を利用したデジタルアシスタントでのコミュニケーションが可能です。
利用実績は、航空、鉄道、建設、福祉施設、流通など様々な業種にわたり、コミュニケーション手段としての活用がされています。

株式会社サイエンスアーツ　について

サイエンスアーツは、「フロントラインワーカーに未来の DX を提供し、明るく笑顔で働ける社会の力となる」ことをミッションとして掲げ、フロントラインワーカーをつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム「Buddycom」の開発・販売を行っております。2021 年に東証マザーズに上場（現在はグロースに移行）し、現在では 5 年連続シェア No.1※を獲得しました。今後も、スタッフ間コミュニケーションに留まらず、スタッフとお客様、スタッフと AI を美しくつなげることで、フロントラインワーカーが明るく笑顔で働ける社会を目指してまいります。

※音声（映像）コミュニケーションツール出荷金額・社数（ノンデスクワーカー向け）デロイト トーマツ ミック経済研究所「デスクレス SaaS 市場の実態と展望 2025 年度版」

◆　**お問い合わせ先**

【社名】　株式会社サイエンスアーツ
【所在地】　東京都渋谷区渋谷 1 丁目 2－5 MFPR 渋谷ビル 5F
【代表取締役社長】　平岡 竜太朗
【資本金】　4.5 億円
【設立】　2003 年 9 月
【E-mail】　pr@science-arts.com
【Web サイト】　https://buddycom.net/